

## 令和2年度

### 第1回岐阜県古代・中世寺院跡総合調査検討委員会 議事録（要旨）

日 時	令和2年9月17日（木）9:00～16:00
場 所	瑞浪市総合文化センター、伝心宗寺跡、清来寺
参 加 者	検討委員等17名
<p><b>(1) 調査計画について</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、聞き取り調査や文献調査に影響があるものの、事業全体計画に大きな影響はない。</li></ul> <p><b>(2) 令和2年度の調査状況について</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・南宮山に展開する遺跡群は、例えば薬師堂遺跡の本堂跡東側の緩斜面や、経塚の詳細、墓域の有無確認など、もう少し詳細な調査や図化が必要である。</li><li>・梵鐘、経典、仏具等が後世に移動していることも考慮するとよい。</li><li>・直線道路とその両側に平坦面の広がりを持つ寺院は近江の様相に近い。そのような寺院は西濃地域に多く、東濃地域は少なくなる傾向があるのではないかと。</li><li>・寿楽寺廃寺跡出土の土製品の元素マッピング分析結果を検討するために、岐阜県博物館に展示してある遺物(塑像)も同様の分析をしてはどうか。</li><li>・岐阜県内の白鳳寺院が古墳と隣接する事例は少ない。そのため、寿楽寺廃寺跡の近くに古墳群があるのは驚きであり、今後の悉皆調査においても古墳の存在に注意すべきである。</li></ul> <p><b>(3) 報告書第3章に掲載する内容について</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・一つの寺院を見開きでレイアウトした方がよい。</li><li>・第7節は(1)、(2)を概要とし、それ以降は大項目として古代と中世に分けて整理した方がよい。</li><li>・できるだけ特定の学説に拠らない、客観的なデータの提示・類型化を検討した方がよい。</li><li>・88頁の表1の時代区分は、飛鳥・白鳳を一括とし、中世への転換を考える上で平安時代の細分も検討した方がよい。</li><li>・無理して新しい用語を作らず、客観的な分類を行い、報告書をまとめるとよい。</li></ul> <p><b>伝心宗寺跡、清来寺の現地視察</b></p> <p>&lt;伝心宗寺跡&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・心字池を含む庭園、本堂、集石などの遺構がまとまっており、国史跡としての価値があるものの、現状では年代が特定できていない。</li><li>・集石は巨石の利用の有無や平面形から複数の分類が可能である。現状では方形を志向していないので石塚という表現が妥当で、石塚に供養塔が伴わないため、それ以前の造営の可能性はある。</li><li>・池周辺の基壇状の高まり、枯滝周辺、集石上方の平場などの図化が必要である。</li></ul> <p>&lt;清来寺&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・横穴は仏龕の可能性があり、寺院としては石窟寺院の系譜を考えたい。</li><li>・仏龕のある場所は寺域において聖地（聖域）に当たり、後の時代に供養塔を聖地周辺に集積する事例が多いことを考えれば、現在確認できる供養塔の時期（14世紀後半）よりも前に、仏龕のある景観が展開していたのではないかと。</li></ul>	